

ふるさとファイル

展示コーナーだより
第69号
平成29年1月
生涯学習課

展示期間 平成29年1月11日(水)
~4月2日(日)

※図書館休館日を除く
※期間中、一部、展示内容が変わります

絵図に記された古墳

地域に残る絵図や記録のなかには古墳が「塚」として記されているものがあります。これらの史料は、本来、別の目的で作成されたものですが、視点をかえて見てみると、現存する古墳のほかにも、住宅開発や道路の拡張によって消滅してしまった古墳、未だ確認できていない古墳の存在を知ることができます。

今回の展示では、主に古墳が「塚」として記された史料を紹介します。

長岡京市内の古墳

古墳は全国各地で築造され、市域でも次々と古墳が築造されました。しかし、これらのほとんどは時間が経つとともに田畑として開墾されたり、この地域の名産である筍^{たけのこ}を栽培する過程で必要な土が採取されたりするなどして、姿を消していきます。

さらに昭和30年代から始まる住宅開発や道路の新設・拡張などによって古墳の破壊が進み、これまでの調査で確認された110基の古墳のうち、現在、長岡京市で完存する古墳はわずかに7基です。

井ノ内村の古墳

明治4年(1871)の「后妃皇子皇女等御陵墓取調^{りょうぼ}」に際し、井ノ内村は村内に「車塚」(井ノ内車塚古墳)、「妙正塚^{みょうしょうづか}」、「高塚」の3つの古墳があることを京都府に報告しています。

明治10年頃に編さんされた村誌^{そんし}には、「陵墓」として字広海道^{あざひろかいどう}の「明照塚^{みょうしょうづか}」、字宮山の「高塚」「仏塚」、字向ヒ芝^{むかいしば}の「車塚」、計4ヶ所^{ふたつ}が封土の高さや周回の法量、塚上の植生とともに記載されています。また、字広海道の道側には古墳が多く、事跡は不明ではあるが、この地から陶器や折刀を掘り得る者が往々にある、とも記されています。



明治8年(1875)「井ノ内村乙訓神社旧地絵図」
(右が北、個人蔵)

乙訓神社^{すみのみや}(角宮神社)の旧所在地を記した絵図。村の北西^{よしみねでら}、善峰寺道沿いに「車塚」(井ノ内車塚古墳)と「高野塚」、村の西に「明照塚^{みょうしょうづか}」、「車塚」が記されています。塚上には松のような樹木が叢生^{そうせい}している様子がわかります。



げんろく たかつかさ
元禄11年(1698)「鷹司様御領分乙訓郡井之内村之図」(部分、個人蔵)

井ノ内村における鷹司家領の田畑・屋敷地などの分布を記したもので、同時に山や芝、用水、道、橋、寺社なども描写され、江戸時代の井ノ内村の様子を伝えています。絵図中には「車塚」(井ノ内車塚古墳)をはじめ「新祭塚」「ハイツカ」といった数ヶ所の塚が記されています。なかでも「親王御塚」や北隣の「塚」(下東ノ口古墳)付近は発掘調査が行われておらず、この絵図でその存在が確認されるのみですが、前方後円墳の形で描かれていることは貴重な情報といえるでしょう。

今里村の古墳

明治4年(1871)の調査では、今里村は村内に字大塚(今里大塚古墳)、字彦林、字車塚(今里車塚古墳)の3ヶ所に古墳があることを京都府に報告しています。また、明治5年作成の「今里村地形全図」には、上記3ヶ所のほかに細塚古墳や舞塚古墳群が記され、字薬師堂には古墳を思わせる荒地が描かれています。

これらの古墳は、道路の新設や拡張、宅地開発などで全壊、または半壊し、墳丘部が現存する古墳は今里大塚古墳のみです。



明治5年(1872)今里村地形全図
(部分、今里自治会蔵)

絵図中には今里大塚古墳や細塚古墳が荒地として、舞塚古墳群の1つが藪林として描かれています。



享和3年(1803)「御分間就御用村内書上帳」
(個人蔵)

今里村の概況を書き上げた帳面。このなかで今里村に塚が3ヶ所あることが報告されています。